

校長室からのお知らせ

7月7日 NO.9

岸和田市立山直北小学校
校長 尾野 武志

関西弁

電車で通勤しています。年配の女性二人が横に座られることがあり、お二人の会話に思わず引き込まれています。

Aさん「昼から雨がぎょうさん（たくさん）降るらしいよ。」

Bさん「なんぎ（たいへん）やな。雨降らんと米降ったら、ええのになあ。」

Aさん「ほんまや、ほんまや。」

Bさん「膝、いたあて（痛くて）昨日病院に行ったんよ。」

Aさん「膝に水、溜まってたんとちやう（違う）の。」

Bさん「せやねん（そうだね）。お金はまったく貯まらんけど、膝に水はようけ（たくさん）溜まるわ。」

Aさん「ほんまや、ほんまや。」

Bさん「隣のご夫婦、今度ロンドンにいかはる（行かれる）ねんで。」

Aさん「海外なんて行ったことないわ。」

Bさん「なんて（どうして）よ。毎日コーヒー飲みに行ってるやん。
パリに。」

Aさん「ほんまや、ほんまや。喫茶店（の名前）、パリやわ。」

いつか紹介しようとメモしていました。決して私が創作したネタではありません。Aさんの「ほんまや、はんまや。」が言い終わるとタイミングよく天王寺駅に着きます。下車すると、お二人とも杖をつきながらエスカレーターの手すりも持たずに早足（健脚という言葉がぴったりです）で登って改札口で別れ、それぞれの職場に向かわれるようです。

漫才コンビのような笑いのセンス、エスカレーターでの健脚にも感心していますが、 の関西弁に心が動かされています。テレビで流れる標準語は大切ですが、関西独自の言葉が廃れないようにご家族の高齢者の方や地域の年配者の方々と子どもたちが触れ合える機会があったらいいと思います。「子どもも高齢者も地域の宝」の山北校区になることを望みます。

校長室からのお知らせ

7月17日 NO.10

岸和田市立山直北小学校
校長 尾野 武志

夏休みが始まります

明日で1学期が終わり、明後日から夏休みが始まります。個人的には、7月8月9月の3か月くらいは夏休みにしてほしいと思っています。決して仕事がしたくないという理由ではなく、「命を守る」という観点から真面目に考えています。6月中旬に35度を超える猛暑日を記録した地域が多数あったり、近畿地方では梅雨明けが例年に比べて20日以上も早かったりと、「命に関わる危険な暑さ」の期間が長くなってきていると感じています。以前聞いたことがある「そのうち日本は四季（春夏秋冬）の国ではなく、二季（夏冬）の国になる」という話も現実味を帯びてきているように思います。桜や紅葉を見に行けなくなったり、♪春を愛する人は心清き人 すみれの花のようなぼくの友だち♪という「四季の歌（知っておられる方が少ないかもしれませんが、過去に国民的人気の楽曲です）」が歌えなくなったりする日が本当にくるかもしれないと考えると、やはり日本は二季ではなく四季の国であってほしいと願います。

少し調べてみますと、危険な暑さは気温35度以上となっていました。しかしながら、子どもは大人よりも体温調整機能が未発達なため熱がこもりやすく、熱中症になりやすい傾向にあるため、大人よりも危険な暑さには注意が必要となるようです。ご存じの方も多数おられると思いますが、熱中症対策や予防法を紹介させていただきます。

- ① こまめな水分補給⇒20分ごとに200ml程度の水分補給を
- ② 外出を控える⇒31度以上は危険 涼しい朝や夕方に変更を
- ③ 衣類の調整⇒帽子をかぶる 汗でぬれた服は着替える
- ④ こまめな休憩⇒水分補給のタイミングで涼しい場所で休憩を
- ⑤ SOSの発信⇒少しでも不快な症状があれば助けを求める練習を

昔は夏休み明けの日焼けした子どもたちを微笑ましく見ていましたが、皮膚がんや白内障などのリスクが高まること、シミ・シワなど原因になることなどがわかってきた今は、微笑ましさは影を潜め、心配の方が勝るようになってきました。お子さまの命と健康を守る工夫をお願いいたします。